



守られ、愛されていることの幸せ



本校の玄関には、いつもきれいな花が絶えることがありません。校長室も潤いある空間になっています。これは、近くにお住まいの二ノ文スエ子様が、いつも学校に届けてくださるお花です。毎日、毎日、この美しい花が、子どもたちや来客の方々、そして職員を迎えてくれます。このような潤いある環境を提供していただいている二ノ文様に深く感謝申し上げます。

キリスト教の行事のひとつである花の日は、「6月の第2日曜日」です。花の日とは、花も人も神様から与えられ、守られ、愛されていることを感謝する日だそうです。

宗教に関係なく、この学校が、地域の方々から守られ、愛されていることをつくづく感じる毎日であり、その中で暮らし、教育に取り組むことができる幸せに、感謝の思いでいっぱいです。

和
氣
香
風

教室に花を！学校に潤いを！～南小花いっぱい運動～

昔の学校では、教卓の上やロッカーの上に、いつも花が飾られていました。朝から、よく新聞紙にくるんだ花を持って登校したという思い出をお持ちの方も多いのではないでしょうか。花は、各家庭のおばあちゃんやお母さんが「これ、学校に持って行きなっせ！」と言って、持たせてくれたものだったでしょう。花屋で買ったものではなく、庭先に咲いていた花々を持たせてくれていました。おかげで、昔の学校は、そうした人の思いが込められた花々に包まれて、潤いある学校生活を送ることができていたと感じます。

いつの頃からでしょうか、そうした文化がなくなってきたのは、核家族化や住宅事情等、様々な要因があるかと思いますが、失いたくない日本の学校風景そして文化だと思います。右の写真は、昨年度のもので、数ある記録写真の中でも大好きな1枚です。こんなにもすてきな子どもが育っているのです。



「花育」という言葉があります。花育とは、花や緑に親しみ育てる機会をとおして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育む体験学習です。花や緑を「大切な物」「愛おしい物」「かわいい物」と思う気持ちを育む花育は、季節を感じ、色や香りから視覚や嗅覚を養い、花という生命を感じ命の大切さや存在する意味を学びます。そして、自分や友達を大切にする心につながるのです。

だからこそ、この**南小の教室や校舎を花でいっぱいにしたい**のです。教卓の上や廊下のいたる所に、家庭や地域から寄せられた善意の花々が飾られている、潤いに満ちた学校にしたいのです。そして、子どもたちが大人になったとき、『学校にはいつも花が飾られていたなあ』『小さい頃、よく新聞紙にくるんだ花を学校に持って行っていたなあ。』という思い出を振り返られるようにしたいのです。

花は形も、色も、大きさも、香りも様々です。その一つ一つが、それぞれの美しさで光り輝き、愛おしい存在です。

それは、子どもたちも同じです。どんな子だって、個性に輝き、みんなみんな愛おしい存在です。体が大きな子、小さな子。勉強が得意な子、勉強は苦手だけど人にやさしい子。活発に活動する子、おとなしくじっくり考える子。恥ずかしがり屋な子、いつも堂々としている子。あわてんぼうな子、のんびりやさんな子。

そのどれもが、素敵な個性であり、愛おしい。SMAPの「世界に一つだけの花」でも、「もともと特別なOnely One」と歌われています。花は、私たちの日常の中で、そうした大事なことを教えてくれる大切な存在です。

そこで、お願いです。**庭先や道ばたに咲いている花を、子どもたちに持たせていただけませんか？学校に寄せていただけませんか？** 南小の保護者及び地域の方々のお力を貸してください。すぐにでも、来週にでも、花が届くといいなと思うながらお待ちしております。あわせて、ご自宅に眠っている使わない花瓶や一輪挿し、それに代わる物がございましたら、

学校用としていただけたら幸いです。

お願いばかりで申し訳ございませんが、どうぞよろしく
お願ひいたします。



pixta.jp - 64116211